



打楽器奏者

さかきばら

榎原 あいさん

Profile

1975年藤岡市生まれ。東京農業大学第二高等学校を卒業後、洗足学園大学(現洗足学園音楽大学)に入学し、打楽器を専攻。卒業後は、フリーランスとして活動中。

心に響く一音を求めて

軽

やかに動くマレットから紡がれるマリンバの音色。木のぬくもりを感じる柔らかな響きが静かな空間を優しく包み、心地よい余韻を残します。その一音一音を大切に奏でるのは、打楽器奏者として活動する榎原さんです。

音楽家である父のもと、幼い頃から音楽が暮らしの中にある日々を過ごしてきた榎原さん。物心付いた頃には自身もピアノを習い始め、音楽はいつも身近な存在であったと話します。探偵や天文学者に憧れた時期もありましたが、何よりも音楽が好きだったことから、中学校では吹奏楽部に入部。当初から打楽器希望でしたが、いつ

き希望者のいなかったコントラバスの体験もしたとのこと。「後で希望者が来たので、先輩から『好きな方を選んでいいよ』と言われ、打楽器を選びました。あの時コントラバスを選んでいたら、今とは全く違う人生になっていたかもしれない」と、人生の分岐点となった当時の思い出を笑顔で振り返ります。

現在は小・中学校の吹奏楽部や音楽教室、自宅での個人レッスン

などで打楽器の指導にあたるほか、コンサートでの演奏活動も精力的に行っています。演奏は、旋律を大切にしながら、心地よい音色を届けることを何より意識しているという榎原さん。「昔は周りが見えず、自分を主張し過ぎてしまうこともありましたが、今は周りの音との調和を大切にして、その中で自分の音が自然に生きる演奏を心掛けています。いつまでも聴いていなくなるような音色を奏でられる奏者になりたい」。そう穏やかに語る言葉からは、榎原さんの真摯に音楽と向き合う姿勢が垣間見えます。

打楽器奏者として地道にコツコツと積み重ねてきた榎原さん。「今の仕事があるのも、人との縁があったから。皆さんに感謝しかないです」と話します。「音楽は楽しい」という思いを、これからも演奏を通して伝えていきたいと笑顔を見せます。

人との縁を大切に歩み続けるその姿は、心に寄り添う優しい音色となつて、これからも多くの人へ届けられていくことでしょう。